



平成 29 年 9 月 8 日

各 位

会 社 名 トラストホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 喜久田 匡宏
(コード番号：3286 東証マザーズ・福証Q-Board)
問合せ先 専務取締役 矢羽田 弘
(TEL. 0 9 2 - 4 3 7 - 8 9 4 4)

(訂正) 「平成 28 年 6 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成 28 年 2 月 10 日に開示いたしました「平成 28 年 6 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

記

訂正内容と理由

「平成 28 年 6 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」について、平成 29 年 6 月期決算作業の過程において、「その他」の区分のセグメントにて記載しておりました「メディカルサービス事業」は報告セグメントに該当することが判明したため、記載内容の一部訂正を行うものであります。

なお、訂正箇所は _____ を付しております。

【訂正箇所】添付資料 2 ページ

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

<訂正前>

⑤RV事業

RV事業につきましては、福岡販売本部（福岡県筑紫郡那珂川町）においてRV車等の販売に注力いたしました。また、秋田工場（秋田県横手市）においてオリジナルRV車等の開発・生産に注力してまいりました。

以上の結果、売上高 87,132 千円、営業損失 52,338 千円となりました。

⑥その他事業

警備事業、広告事業、メディカルサービス事業等のその他事業につきましては概ね堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高 178,873 千円（前年同期比 46.8%増）、営業 利益 10,673 千円（前年同期は 1,361 千円の営業損失）となりました。

<訂正後>

⑤メディカルサービス事業

メディカルサービス事業につきましては、「介護老人保健施設みやこ」及び平成 27 年 11 月に開院いたしました「福岡信和病院」の賃貸収入等により概ね堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高 82,877 千円（前年同期比 265.1%増）、営業利益 22,192 千円（前年同期比 733.9%増）となりました。

⑥RV事業

RV事業につきましては、福岡販売本部（福岡県筑紫郡那珂川町）においてRV車等の販売に注力いたしました。また、秋田工場（秋田県横手市）においてオリジナルRV車等の開発・生産に注力してまいりました。

以上の結果、売上高 87,132 千円、営業損失 52,338 千円となりました。

⑦その他事業

警備事業、広告事業等のその他事業につきましては早期収益化に向け営業活動に注力いたしました。

以上の結果、売上高 95,995 千円（前年同期比 3.1%減）、営業 損失 11,518 千円（前年同期は 4,022 千円の営業損失）となりました。

【訂正箇所】添付資料 11ページ

3. 四半期連結財務諸表

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

セグメント情報

<訂正前>

I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年7月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	駐車場 事業	不動産等 事業	ウォーター 事業	アミューズ メント事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	3,427,557	567,540	447,985	286,565	4,729,648	121,815	4,851,464	—	4,851,464
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,620	13,051	942	480	16,094	25,893	41,987	(41,987)	—
計	3,429,177	580,591	448,928	287,046	4,745,742	147,709	4,893,451	(41,987)	4,851,464
セグメント利益 又は損失(△)	249,727	△169,493	△191,839	△10,066	△121,672	△1,361	△123,034	△13,248	△136,282

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業、メディカルサービス事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去 158,014 千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△171,289 千円及び棚卸資産等の調整額 26 千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第4四半期連結会計期間より、「その他」に含まれていた「アミューズメント事業」について金額的重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては14,365千円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	R V事業	計
売上高						
外部顧客への売上高	3,385,986	1,268,160	1,148,483	429,919	87,132	<u>6,319,682</u>
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,566	11,489	1,396	171	—	15,624
計	3,388,552	1,279,650	1,149,880	430,091	87,132	<u>6,335,306</u>
セグメント利益又は損失（△）	312,911	△186,021	45,146	△8,911	△52,338	<u>110,786</u>

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	<u>178,873</u>	6,498,555	—	6,498,555
セグメント間の内部売上高又は振替高	48,108	63,733	(63,733)	—
計	<u>226,981</u>	6,562,288	(63,733)	6,498,555
セグメント利益又は損失（△）	<u>10,673</u>	121,460	4,561	126,022

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業、メディカルサービス事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去 200,634千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△196,104千円及び棚卸資産等の調整額 31千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社（持株会社）運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「その他」に含まれていた「R V事業」について金額の重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、「R V事業」については前第4四半期連結会計期間より事業を開始しているため、前第2四半期連結累計期間における該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,167千円であります。

「その他」の区分において、主に収益性が著しく低下した車両の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては70千円であります。

<訂正後>

I 前第2四半期連結累計期間（自平成26年7月1日至平成26年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					計
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	メディカルサービス事業	
売上高						
外部顧客への売上高	3,427,557	567,540	447,985	286,565	22,698	4,752,346
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,620	13,051	942	480	—	16,094
計	3,429,177	580,591	448,928	287,046	22,698	4,768,440
セグメント利益又は損失（△）	249,727	△169,493	△191,839	△10,066	2,661	△119,011

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	99,117	4,851,464	—	4,851,464
セグメント間の内部売上高又は振替高	25,893	41,987	(41,987)	—
計	125,011	4,893,451	(41,987)	4,851,464
セグメント利益又は損失（△）	△4,022	△123,034	△13,248	△136,282

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去 158,014 千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△171,289 千円及び棚卸資産等の調整額 26 千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社（持株会社）運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第4四半期連結会計期間より、「その他」に含まれていた「アミューズメント事業」及び「メディカルサービス事業」について金額的重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては 14,365 千円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						計
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター 事業	アミューズ メント事業	メディカル サービス事業	R V事業	
売上高							
外部顧客への 売上高	3,385,986	1,268,160	1,148,483	429,919	82,877	87,132	6,402,559
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,566	11,489	1,396	171	二	—	15,624
計	3,388,552	1,279,650	1,149,880	430,091	82,877	87,132	6,418,183
セグメント利益 又は損失（△）	312,911	△186,021	45,146	△8,911	22,192	△52,338	132,978

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への 売上高	95,995	6,498,555	—	6,498,555
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	48,108	63,733	(63,733)	—
計	144,104	6,562,288	(63,733)	6,498,555
セグメント利益 又は損失（△）	△11,518	121,460	4,561	126,022

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去200,634千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△196,104千円及び棚卸資産等の調整額31千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社（持株会社）運営に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「その他」に含まれていた「R V事業」について金額的重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、「R V事業」については前第4四半期連結会計期間より事業を開始しているため、前第2四半期連結累計期間における該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,167千円であります。

「その他」の区分において、主に収益性が著しく低下した車両の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては70千円であります。